

コロナ禍の商店街の取組み

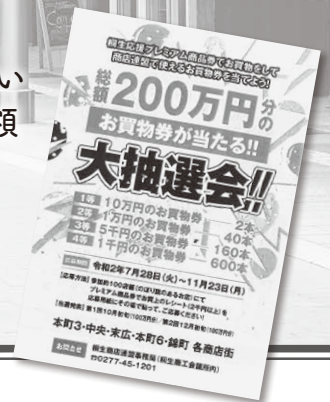
緊急事態宣言を受けて、営業時間の短縮や営業自粛を行ってきた商店街。外出自粛が緩和されるも、客足は鈍い。

こうした中、群馬県では、感染症対策を適切に行っている小売・飲食サービス業等を認定する「ストップコロナ！対策認定制度」を創設。7月17日より申請受付を開始し、商店街の店舗も申請を行っています。

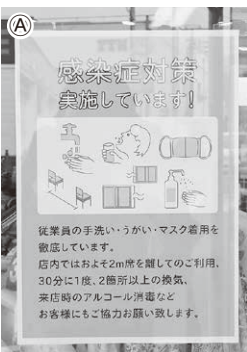
そこで、今月号から数回にわたって、各商店街の理事長のメッセージを始め、県内商店街・店舗の取組みを紹介します。今回は、桐生市内の3商店街です。

桐生の中心商店街の活性化策

桐生市がプレミアム商品券を発行する中、桐生の中心商店街の買い物を促進するため、商店街でプレミアム商品券を利用すると、総額200万円の商店街お買物券が当たる抽選会を実施中。
(応募期間：7月28日～11月23日)



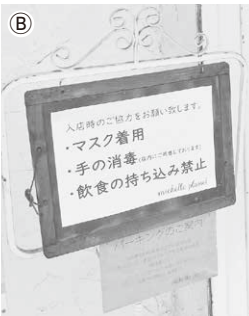
レジ前から距離をとるため、立ち位置のサインを設置。



店の入り口に、マスク着用などのポップを掲示。



試着室を利用する度にアルコール除菌。また、複数のサーキュレーターで店内の風通しをよくしている。(上)



- ①ペペ(下着店)
- ②ミシェルプラネット(雑貨店)
- ③クローゼット(洋服店)



今川理事長

桐生市末広町商店街振興組合

理事長 今川 守
組合員数 56人

コロナ禍で経営は悪化した。店の再生は必要だ。しかし、安全・安心があつてこそその商売。行政の支援と個店の努力で、コロナ禍を乗り切つていきたい。

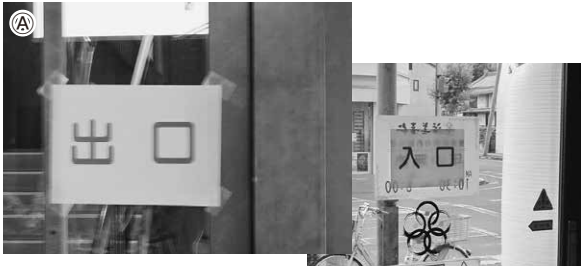
桐生中央商店街振興組合

理事長 茂木幹之
組合員数 32人



茂木理事長

商店街を舞台に、長年親しまれている夏最大のイベント「桐生八木節まつり」が中止となり、まつり口スの状況。だからこそ商店街の賑わいを早く取り戻したい。



①店内に2カ所ある出入口を入口と出口に分け、動線を一方通行にし、お客様の対面を防止。(左)



②オリジナルのサマークールドライマスクを製造・販売。(上)



③お客様の来店が集中するオリジナルランドセルの受注時期に、3密を避けるため、店内外に待合場所を設置。(下)



④写真家が撮影した「桐生八木節まつり」の写真をパネル展示。来訪者はまつりの熱気や迫力を仮想体験できる。(左)

①美喜仁(飲食店)、②KINARI(ギフトショップ)、③モギカバン店(鞆製造小売)、④ギャラリー禅林(イベント施設)

桐生市本町六丁目商店街振興組合

理事長 多田和生
組合員数 55人

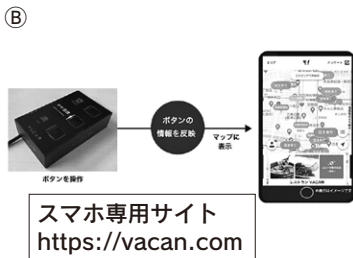


多田理事長

イベントを行って、賑わいを出せないのは残念。コロナ禍と諦めず、今できることをする時。商店街や個店の取組みを積極的にお客様に情報発信していきたい。



①夜間、ウイルス除去のため、空間除菌を実施。(上)



②お店の混雑状況をスマホサイト上にリアルタイムで配信するサービスを活用。密の回避に有効。同サービスは、桐生市と連携しており、地域ぐるみの取組みは全国初。(左)



③お客様と対面するレジ付近にビニールシートを設置。(左) (下)



④メイクの施術など、お客様と対面する時間が長いため、接客時、お客様に対して、問診票の記入を求めている。(上)



①FIRST CLASS(美容院)、②TADA(メンズファッション)、③辰見屋(和菓子店)、④今西商店(たばこ・宝くじ販売)、⑤舟定(和菓子店)、⑥たなへ化粧品店(化粧品店)